



明峰

令和8年6月5日

第6号

校長 岡野利男

※犬塚さんからの贈りもの

今回は、・白小菊

・ヒペリカム

・ひまわり です。

いつもありがとうございます。



いざ、「市中総体」の舞台へ!!

いよいよ市中総体まで1週間となりました。

**技は鍛えあげても、
心まで鍛え抜いたチームは多くない。**

私が若い頃に御一緒した尊敬する先生がおっしゃっていた言葉です。まさに、その通りだと思います。

校長として、明峰中学校選手団に望むのは、優勝旗の本数ではなく、会場で発揮する“明峰生の気風”。そして、誰が見ても「いいチームだな、応援したくなるチームだ」と思える“戦いぶり”です。

心を鍛え抜いたチームとはどういうチームなのか、それを個々人がしっかり考え抜き、チームで一つにする時間はまだ残されています。

○会場でのマナーを守れぬようなチームに勝利は訪れません。挨拶の仕方、履物の揃え方、トイレの使い方、荷物の置き方、あらゆる場面での一挙手一投足が勝負に直結する。

○劣勢に不貞腐れて投げやりなプレーをしたり、チームメイトに怒りをぶつけたりするような選手であってはならぬ。それは、そもそも己の心に負けていることの証。

○会場の看板、プログラム冊子、きれいにひかれたライン、その一つ一つの向こうにある「誰かの誠意」に心を馳せられる選手たれ。そこから初めて真の「感謝」が生まれるはず。

これまで、お子さんの部活動生活を支え、励まし続けてこられた保護者の皆様、特に3年生の保護者の皆様、いよいよ中総体ですね。感慨ひとしおのことと拝察いたします。先に述べたとおり、中学生スポーツ選手に臨むべきは、単なる技術向上だけではなく、それぞれのお子様の「自分自身との闘い」を最後まで、精一杯、応援・支援していただきたいと思ひます。

「思い通りの背番号がもらえなかった」「控えのまま試合に出られなかった」そんな3年生もいるでしょう。でも、私は、そんな子供にこそ拍手を贈りたい。「君はそれでも3年生まで続けてきた。君こそ、長い人生のレギュラーになる人だ。」と伝えたい。どうぞ、それぞれのお子様にそれぞれの言葉を。

自慢話

2日(火)、諫早市内の小中学校の校長研修会がありました。月に一度、市内40校の校長が集まって協議や勉強をすることとなっています。いや、その会のことはどうでもいいのです(笑)。毎月、校長会の後はぐったり疲れて帰ってくる私です。この日も御多分に漏れず、心身共に疲れ切った帰りの運転でした…。でも、一瞬で元気になるプレゼントを

もらったのです。

左の写真の道、どこか分かりますか？ 明峰中裏門の上を走る市道です。写真よりも左が国道34号線、右側



は明峰中学校となります。

この道を通って学校に帰ろうとしたところ、まあ、なんと多くの下校中の子供たちがニコニコと私に手を振って挨拶するのです。嬉しくなり、窓を下げ「さようならあ！気を付けて帰りなさいよお！」と子供たちに呼びかけながら徐行していたところ、右下のグラウンドからも「校長先生！お帰りなさいい！」と手を振り呼んでいる生徒がいます…。気持ちの沈んだ日だっただけに、子供たちの優しさやさわやかに命拾いしたような気にさえなりました。

この子供たちの生活する学校の校長ができている今、とても幸せです。こんな生徒たちがいる、その事実は私の最大の自慢ですー。

ちょっと一服・・・

最後に紙面が中途半端に余ったので・・・。

今日、6月5日は「落語の日」だそうです。“ろく”と“ご”。で“ろくご”から“らくご”の語呂合わせ。

以前は、飛行機で機内オーディオサービスに「落語」がありましたよね。そうした“フライト寄席”には面白い落語の演目は選ばれない・わざと外されていたそうです。なぜだかわかりますか？

「オチがないから。

= (飛行機が落ちないように)」